

編 集 後 記

既にお気づきとは思いますが、「岡山大学環境管理センター報」は前号（12号）より装いも新たに「環境制御」としてお届けすることになりました。これまでは、岡山大学環境管理センター（以下センターと呼ぶ）の活動・業務に関する報告を主とし、それに学内からの寄稿を掲載する形をとってきました。しかし、近年、学内外における環境問題に対する意識は高まり、またこれまでの教育・研究活動の積み重ねに基づくセンター活動の重要性が徐々に再認識されてきました。そこで、センターにおける研究活動の情報公開を一層推進し、学内の構成員のみならず学外に対しても環境科学に関する理解を深めその重要性を訴えて行くにはどうすべきか、という議論がセンター運営協議会内で行われてきておりました。その結果、「岡山大学環境管理センター報」を、業務報告的な性格は残しながらも、研究論文、研究報告あるいは環境問題に関するトピックの解説に力点をおいたものに、少しずつ替えて行くべきであるとの結論に達しました。以上のような経緯の後、岡山大学環境管理センター管理委員会の承認も得て、本報がこの度「環境制御」として再出発することとなった訳であります。既に本学中央図書館のお世話によりISSN番号も得られ、学会誌と同等の取り扱いとなっています。

昨今マスコミは、ダイオキシンやアルキル錫などを取り上げておりますが、必ずしも正しい科学的紹介があるわけではありません。炭酸ガスの問題にしても、また岡山県南に住むわれわれにとって重要な児島湖問題にしてもしかりであります。「環境制御」としての第2号に、由比浜・大滝・沖の各先生のご寄稿をいただいたことは、まことにタイムリーという他はなく、編集に多少でも係ったものとして幸せに感じております。これを機会に、本報を通して多くの方々が科学的に環境問題を考えていただくことができれば、センターの委員としての責任も果たせるものと考えております。皆様よりの論文・報告の投稿および関連項目についてのご意見やご寄稿をお待ちしておりますとともに、本報の末永いご愛読をお願いする次第です。

岡山大学環境管理センター
「環境制御」編集委員会
編集幹事 尾坂明義（工学部精密応用化学科）